

## 南京発言に関するマスコミ報道(抜粋)

---

### 河村氏発言、南京市が名古屋との交流を一時停止

【中国総局】中国の華僑向け通信社「中国新聞社」（電子版）によると、中国江蘇省南京市政府は21日夜、1937年に起きた南京事件について、「虐殺はなかった」と河村たかし名古屋市長が発言したことを受け、同市との交流を一時停止することを明らかにした。名古屋市と南京市は友好都市提携を結んでいる。

(2012年2月22日01時57分 読売新聞)

### 中国の駐名古屋総領事館「納得できない」と抗議

南京事件をめぐり、名古屋市の河村たかし市長が「虐殺はなかった」と発言したことについて、中国の駐名古屋総領事館（東区）は21日、市長に対し、「市長の発言は納得できない。正しい歴史認識を持ってほしい」と抗議した。

市によると、総領事館側は〈1〉発言の内容は納得できない〈2〉日中政府レベルで研究が行われている中、個人的経験に基づく発言は軽率ではないか〈3〉正しい歴史認識から学ぶことを期待する——の3点を電話で伝えてきたという。

河村市長は「抗議を受けたことは聞いた。後日、改めてコメントする」としている。

市役所には21日夕までに、電話や電子メールで64件の意見が寄せられた。このうち42件は市長の発言を支持する内容で、22件は批判的な意見だった。  
(2012年2月22日08時21分 読売新聞)

### 河村市長「南京大虐殺なかった」…中国訪問団に

名古屋市の河村たかし市長は20日、中国・南京市の共産党市委員会常務委員ら8人に対し、南京大虐殺について、「戦闘行為があつて多くの方は亡くなつたが、いわゆる虐殺はなかつた」と持論を展開した。

同日の記者会見で明らかにした。

一行は友好都市である名古屋市の河村市長を表敬訪問。劉志偉常務委員らに対し、河村市長は「亡くなった父が1945年の終戦時に南京にいた時、地元住人にやさしくしてもらつた。虐殺のようなことがあれば、対応が違つていたはず」などとして、南京市で討論会を開くことを提案した。

河村市長は2009年9月の市議会で、中国が南京大虐殺の被害者を30万人としていることに対し「深い疑問がある。誤解されて伝わっているのではないか」と一般質問に答えた。名古屋市市長室国際交流課によると、河村市長は

昨年12月5日、名古屋市役所を訪れた南京市の李<sup>リ</sup>副市長に対しても、大虐殺はなかつたとする趣旨のことを発言している。

(2012年2月20日20時08分 読売新聞)

## 河村市長発言：南京市が名古屋市との交流を当面中止

中国の通信社、中国新聞社によると、南京市は21日、姉妹都市提携を結んでいる名古屋市の河村たかし市長の旧日本軍による「南京大虐殺」を否定する発言によって市民感情が傷つけられたとして、両市の行政当局の交流を当面中止すると発表した。

河村氏の発言をめぐり、中国側が報復措置を発表したのは初めて。

河村氏は20日、中国共産党南京市委員会の劉志偉常務委員らとの会談で南京大虐殺について「通常の戦闘行為はあったが、南京事件はなかったのではないか」と発言した。

両市は1978年12月に姉妹都市提携を結んだ。（共同）

毎日新聞 2012年2月22日 8時42分

## 河村・名古屋市長：「南京事件というのとはなかった」と発言



中国共産党南京市委員会常務委員(左)と談笑する河村たかし名古屋市長＝名古屋市役所で2012年2月20日午前9時53分、福島祥撮影

名古屋市の河村たかし市長は20日、表敬訪問を受けた同市の姉妹友好都市である中国・南京市の共産党市委員会常務委員らの一行8人に対し、1937年の南京事件について「通常の戦闘行為はあつて残念だが、南京事件というのとはなかったのではないか」と発言した。

河村市長は旧日本兵だった父親が南京で45年の終戦を迎え「温かいもてなしを受けた」と話していたことを明かし「8年の間にもしそんなことがあった

ら、南京の人がなんでそんなに日本の軍隊に優しくしてくれたのか理解できない」などと述べた。

さらに「真実を明らかにしないと、とげが刺さっているようなものでうまくいかない。一度、討論会を南京で開いてほしい」と求めた。

南京事件を巡り河村市長は09年9月の市議会一般質問でも「一般的な戦闘行為はあったが、誤解されて伝わっているのではないか」と述べたことがある。

また、名古屋市北区名城の国家公務員宿舎跡地の中国総領事館への売却問題でも、南京市の一行に対し「できれば遠慮していただきたい」と述べ、売却に否定的な見解を示した。【福島祥】

毎日新聞 2012年2月20日 12時33分（最終更新 2月20日 12時56分）

**朝日新聞デジタル 2012年2月22日2時17分.**

## **南京市、名古屋市との交流停止 河村氏発言受け**

中国・南京市政府は21日、名古屋市の河村たかし市長が「南京事件というのはなかったのではないか」と発言したことを受け、両市間の公の交流を当面停止すると発表した。南京市外事弁公室のスポークスマンは「虐殺の史実を否定する（河村市長の）発言は、南京市民の感情を著しく害した」と非難した。

河村市長は20日、姉妹友好都市である南京市の共産党市委員会の常務委員ら訪日代表団の表敬訪問を受けたとき、「一般的な戦闘行為はあった」としながら、旧日本軍による虐殺を否定するような発言をした。訪日代表団はその後、「河村市長の言論は無責任であり、歴史をねじ曲げ、南京の人びとを尊重する気持ちが欠けている」と非難。

河村市長が南京事件後に現地に駐屯した父親が優しくもてなされたことを理由に挙げたことについて、南京大虐殺記念館の朱成山館長は「個人的経験に基

づいて歴史を主観的に臆測することは極めて不謹慎だ」と批判するなど、南京で反発が広がっていた。（上海＝奥寺淳）

朝日新聞デジタル 2012年2月20日17時56分

## 「動かぬ証拠ある」と中国反発 河村氏の南京事件発言

河村たかし名古屋市長が「南京事件というのはなかったのではないか」と発言したことについて、中国外務省の洪磊・副報道局長は20日の会見で、「そのような見方には賛成できず、南京大虐殺には動かぬ証拠がある」と反論した。その上で洪氏は「日本側の関係者には、歴史の教訓から学んで、両国関係の健全な発展を進めてほしい」と求めた。（北京）

朝日新聞デジタル 2012年2月20日16時26分

## 「南京事件なかった」と河村氏発言 中国からの訪問団に

名古屋市の河村たかし市長は20日、姉妹友好都市である中国・南京市の共産党市委員会の常務委員ら一行の表敬訪問を受けた際、1937年の南京大虐殺を取り上げて「一般的な戦闘行為はあったが、南京事件というのはなかったのではないか」と発言した。

河村氏は理由について、事件後の45年に現地に駐屯した父親が優しくもてなされたことを挙げたという。

河村氏は09年の9月市議会でも、終戦を南京で迎えた父親の例を挙げて「オヤジは南京で本当に優しくしてもらった。大虐殺があったなら、こんなに優しくしてくれるのだろうか」と語り、「一般的な戦闘行為はあったが、誤解されている」などと発言していた。

## 南京、名古屋と交流停止 市長発言で

2012年2月22日 02時03分

【北京＝渡部圭】華僑向け通信社、中国新聞社によると、名古屋市の河村たかし市長が「南京の（大量虐殺）事件はなかった」と発言したことを受け、名

名古屋市と友好関係にある南京市は21日、両市の交流を当面の間、停止すると発表した。

中国のインターネット上では、批判の声は河村市長だけでなく、市長と名古屋で面会した南京市の幹部に対しても「反論するべきだ」と向けられている。南京市の決定はこうした市民の声に配慮したものとみられる。

南京大虐殺記念館の朱成山館長は同日、同館のホームページと自分のブログに河村市長あての手紙を掲載。「虐殺の歴史的事実を否定することに強烈に抗議する。個人の主観や臆測で判断したり、勝手にゆがめたり、抹殺するべきではない」と苦言を呈した。

河村市長は20日、市役所を訪れた中国共産党の南京市委員会幹部らに、戦時中の旧日本軍の行為に関し「通常の戦闘行為はあったが、南京での事件はなかったのではないかと述べた。その上で「真実を明らかにするためにも、討論会を南京で開いてほしい」と求めた。

名古屋市と南京市は1978年に姉妹都市提携を結んだ。

■河村たかし名古屋市長の話…発言は、真の日中友好のために、互いに広く心を開いて話し合っていこうという思いからだ。状況はよく分からないが、真意が（中国側に）伝わっていないのではないかと。

（中日新聞）

## 「真実を言わないかん」 南京発言、日中間の討論呼び掛け

2012年2月21日

◆名古屋市長会見詳報

名古屋市の河村たかし市長は20日、姉妹都市・南京市の中国共産党幹部らに「南京大虐殺は無かったのではないか」と発言したことに関し、その後の定例会見で「姉妹都市だからこそ、真実を言わないかん」と述べ、討論会など日中間の議論を深めていく考えを強調した。要旨は次の通り。（酒井和人）

－幹部への発言はどういう意図か。

旧日本軍が30万人の一般市民を虐殺したと語り継がれて（南京には）記念館まである。日本国の子孫のため（歴史認識を）真実へと正すのは63歳のじいさまの社会的、政治的使命だと思っております。

－討論会はどういうイメージか。

何人か、私も行きますけど、南京で開くのがいい。論点を三つか四つぐらいに絞って、日本人としての主張をはっきり言っていく。

当時、捕虜収容所で放火事件があって、銃撃事件になってしまって一般の人が亡くなったり、容疑者を揚子江で処刑したりと、残念なことはあった。

南京事件を勉強してきて、一般的な戦闘行為はあったが、虐殺は無かったというのが私の立場です。

米国の高校の歴史副読本には日本軍が40万人の非武装の市民を虐殺したと載っとる。米国もこういう認識。

姉妹都市だからこそ、真実を言い、のどの奥に刺さったトゲをきちっと抜かないかん。堂々と（南京へ）言いに行かなかんです。

－幹部らは発言にどう反応したか。

淡々としておられましたね。

僕の場合、死んだおやじが南京で終戦を迎えて（現地の人たちに）本当に親切にされた。死ぬ前に「南京で優しくしてもらって、はよ帰って来られたんだわ」と言っていました。南京事件があったとされるのは終戦の8年前。虐殺が

あったところでそんな優しくしてもらえないと、共産党の皆さんに言いました。南京の人たちに感謝しとるからこそ、言うんだよって。日中友好を実現するために。

ー南京にある大虐殺記念館の館長が発言を批判しているとの報道がある。

議論が巻き起こって、いいんじゃないですか。中国も冷静に受け止めないかんですよ。

ー市長の考えが日本人の主張だと言い切れる根拠は。

確かに日本人でも（大虐殺が）あったという人はいますからね。大事なのは、もっと客観的に見ることじゃないですかね。日本軍はどこでどういう戦いがあったか、戦闘詳報を残してますから、抽象論じゃなくて、そういうところを一つずつ分析していけばいい。

（中日新聞）

## 「南京事件なかった」 河村市長、日中討論会提案

2012年2月20日 14時11分

名古屋市の河村たかし市長は20日、市役所を訪れた中国共産党の南京市委員会幹部らに、戦時中の旧日本軍の行為に関し「通常の戦闘行為はあったが、南京での（大量虐殺）事件はなかったのではないか」と述べた。その上で「真実を明らかにするためにも、討論会を南京で開いてほしい」と求めた。

河村さんは「南京で終戦を迎えた父は、現地の人からラーメンの作り方を教わるなどのもてなしを受けた。本当に事件があったなら、日本人にやさしくできるものか、理解できない」と大量虐殺に懐疑的な考えを示した。

名古屋市と南京市は1978年に姉妹都市となり、交流を続けている。南京市側の劉志偉・常務委員は8人の訪問団を代表して「教育の中で歴史を強調す



るのは憎しみからではなく、平和を大切にしたいからだ」と述べ、河村さんの発言に対する明確な返答はなかった。

河村さんは2月上旬、南京市を訪れた名古屋市議を通して、討論会開催の意向を伝えていた。訪中した山本久樹市議は「南京側は討論会に前向きだ。今後、事務レベルで日程を詰めることになる」との見通しを語った。

南京事件は、日中戦争初期の37年に日本軍が南京で投降した兵隊や一般市民などを殺したとされる事件。日中で死者数などの見方が分かれている。

日中両国の有識者が2010年にまとめた日中歴史共同研究では、日本側は死者数を「20万人が上限。4万人や2万人とする推計もある」と指摘。中国側は「30万人以上」との見解を示した。

(中日新聞)